

# 道場だより

## 藤谷美也子道場長の著書

### 『貴重なとき私の合気道』感想文特集

藤谷美也子道場長の著書『貴重なとき』が出版されたのは一九九九年、今から十年以上前のことです。

今回、特集として会員の皆さんに感想をお願いしたきっかけは、道場生佐藤正規君のお母さんである佐藤恵子さんのお手紙でした。

以前から、道場の歴史を知ることが少しでも道場長（イコール天心道場）の技の成り立ちやポリシーを理解する手助けになれば、との想いを持っていましたので、そのお手紙のことを聞いた時、改めて『貴重なとき』を未読の方にも是非お勧めしようと考えたわけです。

紙面の都合上、今回の特集号で掲載できなかった方の感想文は、

### 家族の大切さと 思いやりの心

天心道場に入門して今年で一九年目になる。

その間、途中の大学四年間は大阪を離れていたが、大学の合気道部に所属し、稽古は続いていた。

そして、春や夏の長期休暇で帰省した際は真つ先に天心道場に向かった。

旧道場の受付前で、「あつ休みに入ったの

：？」と師範からひと言。帰省する度に温かく声を掛けて下さる師範に、私はとても嬉しくなった。

私が『貴重なとき』私の合気道』を初めて手にしたのは、ちょうどその頃、入門六年目一九九九年の春である。

今でも私の机には『貴重なとき』があり手軽に読める。

この著書は、単なる武道書（技術論）ではなく、師範の苦勞の日々や道場創立までのエピソード、そして二児の育てと道場経営の両立など、今まで知る事もなかった藤谷師範の様々な困難との闘いである。「ゼロとい

うよりマイナスからの試練」から、今日の天心道場に至ったことを思うと、これかも多くの黒帯が在籍し、活気のある道場になってほしい、と私は思った。

『貴重なとき』を読了した時、いつも私は二つの事を考える。

一つは家族の大切さである。

「ただ真面目にさえやっていけば、必ず人は分かってくれる…」という故館長のお言葉や一人しか稽古に来ていない日に、道場にあるろうとする剣太郎さんの姿が、印象に残っている。人間は一人では生きていけないと言われるが、やはり家族の支えや人と人との繋がりの大切さを改めて痛感した。

## 臨時増刊号



発行

合気道天心道場

〒532-0023

大阪市淀川区

十三東1丁目10-8

☎(06)6304-8710

www.aitenshin.com

ご意見・ご感想

投稿用メールBOX

aikido-tenshindojo

@hotmail.co.jp

や、人と人との繋がりを大切にする所に重点を置いた貴重な合気道道場であると思う。また、それは師範自らの体験から悟り導かれた道場であり、私はこの天心道場の弟子であることに誇りを感じている。

師範が伝えたい合気道の思い『貴重なとき』をこれからも沢山の皆さんに読んでいただき天心道場の理解をさらにさらに深めてほしいと私は思う。

もう一つは、思いやりの心である。思いやりの心とは『相手の気持ちになる』『自分の立場をわきまえる』という事であり社会生活の中でもよく言われる言葉である。

しかしながら最近では電車・バスや繁華街・公共施設等でも、この思いやりに欠けた行動事例が多々あるような気がする。

この『貴重なとき』を読んで、天心道場は相手に対する思いやり

力

この機会に、少し久しぶりに読ませていただきました。



### 力を抜くことの重要性

この機会に、少し久しぶりに読ませていただきました。

一読し、藤谷師範の歩まれた人生を思うと、感嘆の気持ち湧いてきます。

余人には無い様々な経験をされ、それを乗り越えてこられたから

こそ、今の境地があるのだと思います。それでいながら、か、それだからこそ、なのか、気さくで、いつも明るく、お元気でおられることに、今まで以上に敬意を感じます。

そうした師範のお人柄や技にひかれ、多くの人が道場に集まっています。師範のお心そのままに、明るい雰囲気の中で、稽古させていただくことの幸せを再認識しました。

「理論」の中で、力を抜くことの重要性を語っておられます。「合気道に限らず、すべてに対して言えることです。」との言葉が強く心に残ります。師範の力みのない洗練された深みのある技に近づくことは容易ではありませんが、少しでも上達し、人間としても成長できるように、今後とも精進したいと思います。

(増田新 参段)

佐藤君のお母さんのお手紙

息子が道場に入会して直ぐに本を読ませて頂きました。女性は、社会生活においても何をすることも女性ならではの困難に向き合わなくてはなりません。仕事、家庭、子育て、苦勞した私の母とその時のお子さんの姿が自分に重なり涙が出ました。本を読み終えた後、正規には「美也子先生が必死で残して下さった道場なのよ。いつかもつと上達して先生のお役に立てる弟子になれる様に努力してね。」と話しました。正規自身も本を読んで神妙な顔つきになり「先生、大変やっつてんな。僕ら頑張らなあかな」と。

入会以来 毎日が楽しく、飯よりも合気道の日が続き先生や黒帯の方々に大切に頂き主人と共に感謝しております。まだまだこれからですが、今後共良きご指導をお願い致します。

先生の強さを再認識

先生には、いつも明るい笑顔でご指導をいただいています。が「貴重なとき」を読んで、それはどんな困難な状況であつても変わらなかつたということが分りました。どんな苦境にも決して負けず、改めて先生の強さを知ることが出来ました。

また、いつもご指導いただいていることで、拍子揃つた昔ながらの先生でした。日頃から「合気道は甘い武道ではない。」と私に教えて下さつていたことも懐かしく、昔を振り返るよい機会となりました。正に、貴重なときです。

「貴重なとき」を読んで、先生が守つてこられた天心道場で稽古ができる幸せを、さらに実感することが出来ました。これからも先生の弟子として、稽古に努力、精進していきたいと思ひます。  
(森伸一 参段)

道場の成り立ちを理解



藤谷先生の貴重なときを読ませて頂き、先生が大変御苦勞なされ

た事や、天心道場の成り立ちを少しは理解できたのではないかと、思つております。私が感じた藤谷先生の稽古は、明るくて楽しい雰囲気、稽古をされると

いう驚きに近い印象を受けました。なぜなら以前私に合気道を教えて下さつた西瀧師範という方は、「キツイ」「怖い」「厳しい」「三拍子揃つた昔ながらの先生でした。日頃から合気道は甘い武道ではない。」と私に教えて下さつていたことも懐かしく、昔を振り返るよい機会となりました。正に、貴重なときです。

今後も西瀧師範から教えて頂いた事をベースに藤谷先生の下で合気道の稽古を修行していきたい、天心道場の方々と貴重なときを歩んでいきたいと思つております。  
(木村哲男 武段)

人生の指針



『“気”の流れはあくまでも円であり...』 『合気道の技は様々ありますが、すべてが円として完結されていま

す。』 これは先生の書かれたこの本の最初と最後に書かれている文章で一言でいうと合気道の基本となるものだと思ひます。

私が天心道場で合気道を学ぶようになって二年が過ぎました。今では伝統ある少年部の指導のお手伝いをさせて頂いた、たくようにもなりました。が、当然ながら合気道の奥は深く、今でも毎日が勉強だと思つています。

この本の中にも重要な技が載っています。先生の教えをよく聞いて、少しでも近づけるように精進を重ねて行きたいと思ひます。 『合気道は「我」を通さず、相手の気持ちになり、自分の立場をわきまえる「思い」が大切です。』と先生は言われています。このことは私たちがこれから生きていく中で、ごく大切な指針であり、何事についてもあてはまることではないでしようか。技ばかりを磨いてもそれを扱う心がなければ、先生がいつもおっしゃる合気道ではなくなつてしまひます。今まで先生が歩んで来られた人生と比

べれば、私など足元にも及ばず正直わからな

先生は「初心」で『自分自身も初心者の時があつたのだから、初心を忘れてはいけません。』と書かれています。どんなに上手になり、経験を積んだとしても、常に初心を忘れるべからずです。』と書かれています。私もおまに怒り、悲しみ、悔しさを感じられました。その時の事を思い出されていたのだと思ひます。

これからの先生の教えを忘れず、何事にも努力し続けて行きたいと思ひます。  
(上西嘉乃)

困難を乗り越える人間性



人が本来持っている人間性について考えさせられました。この様な過酷な経験をされてお話しをさせて頂く

限り、想像することが出来ませんでした。人間がこの様な経験をすると、考え、行動が卑屈で猜疑的になり、自己中心的になると思ひますが、その経験を人生の糧にするか否かで、その先が大きく変わると、美也子先生

美也子先生の強さや優しさは、この様な修羅場を潜つた人のものだと思ひます。美也子先生の合気道を、通じてその一部でも学び取りたいと思ひました。  
(尾崎洋一)

人の痛みがわかる人間に



前半のお母さん(故百合子館長)について、何でも即決できる度胸のよいお母さんに

た。 また、美也子先生もアメリカの道場を回るといふところや、『私、知らない、知らないけどどこかへ着くでしょう』というあたりはお母さんの血をひいておられ、さすがに

セガールさんとの出会いの事や大阪での道場設立に関しては、道場運営、まして合気道という武道でどちらかといえば、男社会のものをお女で運営していくということや子育てにしても本当に大変だった事が良くわかる気がいたします。

また、人を信じようにも信じられない、とあつて何を信用してよいかのかわからないという苦悩がよく伝わってきます。年をとつてくると似たような経験があるのでよくわかる気がいたします。

最後に、天心道場は先生のいろいろな人生経験があつたからこそ、たくさんのお弟子さん

がいらつしやるわけだけだ単純に合気道の技だけ、いつもおつしやられてる挨拶や上下関係、その他、人としての礼儀作法、人の痛みがわかる、などがつくづく大事な事だと思ひます。

今後もっともつとたくさんのお弟子さんが増えてさらに発展していけるように心からお祈りいたします。  
(河内裕美)

女性のパイオニア的存在



いつも何気なしに通う天心道場ですが、 「貴重なとき」 私の場合、美也子先生のご苦勞と道場の歴史を感じました。離婚やいきなりの道場長の引継ぎなど、さぞ大変な思いをされたんだと思ひます。 本書にある、「力を入れてはいけない」「受け身は自分の身を守るためであり消極的ではない」「我」を通さず、相手の気持ちになり、自分の立場をわきまえる「思い」が大切。 「自分勝手な稽古ではなく、相手を



絶対に傷つけないこと」「初心を忘れてはいけない・初心者と稽古をしない」などの理論も、あらためて感じ入りました。頭ではわかるのですがなかなかできないので、もっと稽古をして励もうと思います。

美也子先生はいろんな意味でのパイオニアであり、未来を先取りしていると思います。国際結婚や合気道(日本文化)を海外へ広めるグローバルな活動、女性としての道場長など

これからも更なる発展とご指導をお願いしたいと思います。(小原直人)

**自分にできることは何か**

私はこのご本をまつさらな気持ちでは読めませんでした。

というのは私が先生の著書を読ませていただいたのは、つい最近のことですが、内容について一部知っていたのです。

先生が覚えておられるか分かりませんがそれは私がまだ入って間もない白帯の頃、黒帯



の方と一緒にご自身の辛い過去のことをお話になったことがありました。

こんな大事なことを私が聞いてしまっていたのだらうかと、当時とまどいました。

その時先生が「今と同じ幸せが得られるとしても二度と同じ苦しみ味わいたくない」とおっしゃった意味が改めて感じられる内容でした。

私はある時からこの世の物事は全て+ (プラス)だと考えるようになりまし。辛いことも人の痛みに共感できるようになるからです。また人はこの世で達成すべき課題を決めて生まれてくる、ということも考えます。

自分に起きる問題は自分を成長させるために起こっているのかもしれない、と思うからです。とはいえ、実際そう考えていても自身自身困難な場面に遭遇した時、そのようなことを考える余裕もなくすごします。

ましてや先生の前に立ちふさがった「ゼロ」というよりマイナスからの試練」を想像すると、とても同じことを言えないでしょう。

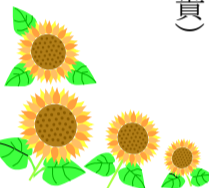
人は自分が窮地に陥った時、それを嘆いてさらにマイナスの方向へ陥るかそれをプラスに転じるかでその後の人生が変わってきます。

先生はご自身がマイナスからプラスに向かわれただけではなく、天心道場の生徒をもその方向に導いて下さいます。

私はいつも美也子先生の私も含めて道場生への愛情を感じます。家族以外で愛されている、と実感できる先生の優しさ。それに応えることができること。道場生として稽古を続けること、それに尽きるのではないかと思います。

私の場合は新聞を発行することで、天心道場のことを皆さんによく知ってもらうことも含まれているかもしれません。

「貴重な時、私の合気道」を読み、先生が守ってこられた道場にこれからも真摯な気持ちで稽古に臨みたい、と思うようになりました。(中家由貴)



**武剣太郎さんインタビュー**  
 僕の見てきた合気道・天心道場 その1

今回、道場長藤谷美也子先生の著書『貴重な時 私の合気道』を特集するにあたり、先生の挑戦の大きな原動力であり、ともに道場を支えて来られたご子息の武剣太郎さんに、稽古後お話をうかがいました。

**◇合気道の魅力って何でしょうか？**

◆実は、僕も合気道という武道は分からないことだらけなんです。色々変わってくるんですよ、自分の中で。合気道という一つの武道に対する見方・考え方は、自分が合気道をしている場合・教えた場合とか。

絶対に相手を痛めつけないというテーマはありますが、答えが変わります。でも答えが出てしまったら面白くないですもんね。

合気道は天才と呼ばれるような巧い人でもなかなか難しいんじゃないでしょうか。そういうところも合気道の面白さだと思います。

**◇美也子先生のご指導で剣太郎さんが感じられていることはありますか？**

◆天心道場は開祖の教えを忠実に守っていると思います。

関節をいたずらに痛めたりさせない。痛めないようにきつくしないような配慮があります。また、当て身や関節技を決められた時は瞬時に受けをとる。殴られてもすぐに治る場合があるけど、関節技は一生治らない場合があります。

母は生徒に対して優しさと厳しさのバランスをうまくとって、かつ分かりやすくを心掛けていてるように思います。

天心道場で、最小限の力で効果の大きな技(力技ではない技)を教えることができるのは、大きな利点じゃないでしょうか。



(美也子先生は)口には出さないですけど、茶道などでも常に注意を払うことを学んでいるので、皆さんそういうことも含めて合気道を習ってほしいと思います。

**◇道場生に一言お願いします**

◆とにかく継続してもらいたいです。

初心者の方は特に、関節技が痛かったら相手に伝える勇気を持つて、あまり恥ずかしがらない方がいいと思います。

アメリカで合気道をしていてもやはり日本が本場だと感じます。

私は、北辰一刀流の剣術を学んでから改めて合気道のすごさを再認識しました。日本の天心道場で皆さんと一緒にレベルの高い稽古ができます、とても充実しています。

剣太郎さんは同じようなことを何度も聞くたどたどしい質問に、嫌な顔一つなさらず、快く丁寧に質問に答えて下さいました。ありがとうございます。(次号に続く)



●編集後記●

この新聞に携わって良かったことはたくさんありますが、今回の場合は、誰よりも早く皆さんの原稿を読ませていただくことができたという事です。

今回趣旨に賛同していただき、今まで以上に協力いただけたのは、ひとえに道場長藤谷美也子先生のお人柄の良さを道場生の方々が感じられているからこそだと思います。

皆様からの感想文はそれぞれ文体は違えども、その方の顔が一人一人思い浮かぶような感じの方が受け止められました。そういう部分も、読者の皆さんに味わって頂きたく、今回校正等については最小限に留めました。

私はそれを一番身近で味わえたことだと思います。

最後になりましたがご協力いただいた皆様方にごこの場を借りて心から感謝を申し上げます。本特集は次号に続きます。(中家)

